

平成27年度 教育委員会 第19回定例会 議案

1 日 時 平成28年1月7日(木) 午後1時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 議 事

<非>第36号議案 教職員人事異動

…非

(3) 報告事項

(4) 閉 会

第19回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
1	監査結果に関する報告	1
配付 のみ	日中青年代表交流報告	4

監査結果に関する報告

(教育総務課)

1 監査の結果

平成27年12月3日に、今年度3回目の監査結果の報告があった。

今回は、平成27年9月28日から10月30日までに実施した県立学校等の監査についての報告で、教育委員会については、別紙のとおり、32所属のうち4件の指摘、3件の注意が付された。

2 指摘等事項の概要

指摘の4件は、「教員によるわいせつ行為の発生」、「教員による盗撮事件の発生」、「交通死亡事故の発生」、「交通加害事故の多発」である。

注意の3件は、「交通加害事故の発生」が2件と「教員による生徒への体罰行為の発生」である。

3 今後の対応

監査結果に対する措置状況は、平成28年3月3日までに監査委員へ報告する。

4 平成27年度第2回の監査結果における意見(2件)に対する措置状況

件名	いじめ根絶への取組
対象機関	義務教育課、高校教育課、特別支援教育課
意見内容 (概要)	いじめ基本方針及び対策組織が適切に機能するよう点検と改善に努めるとともに、保護者や地域住民への積極的な周知を推進して、いじめ問題の根絶に引き続き取り組んでください。
措置状況 (概要)	<ul style="list-style-type: none">・「いじめ問題対策連絡協議会」や「いじめ問題対策本部」において、具体的いじめ事案の研究や関係機関等との連携の在り方について協議し、社会総がかりでいじめの根絶に努める。・「人間関係づくりプログラム」を研究し、まとめた成果を各学校に普及させ、人間関係を構築するための支援に努める。・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的な活用を推進し、相談体制の整備に努める。

件名	教職員の不祥事根絶への取組
対象機関	教育総務課、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課
意見内容 (概要)	懲戒処分件数が過去5年間で最多となっていることから、県教育委員会全体が一丸となり、市町教育委員会とも密接に連携して、教職員のコンプライアンス意識と人権意識の高揚に努めてください。
措置状況 (概要)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育長による指導 <ul style="list-style-type: none"> ・市町教育委員会委員長・教育長連絡会議において、教育長から指導の徹底を依頼するとともに、Eジャーナルへメッセージを掲載した。 2 教育現場における現状把握 <ul style="list-style-type: none"> ・教育長等が各学校を訪問し、不祥事根絶に向けた取組状況や職員の実態把握を実施した。 3 各所属に対し、有用な資料や事例の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・不祥事根絶取組DBを開設し、取組事例の共有化を図る。 ・教職のすばらしさについてEジャーナルへ掲載。 ・ハラスメント防止指針の周知・啓発。 ・信頼にこたえる「わいせつ」「交通事犯」の事例集を追加。 ・人権教育の手引きを活用し、人権意識高揚を図る。 4 各所属に対し、OJTの奨励 <ul style="list-style-type: none"> ・研修会等を通じて、新任管理職及び指導的立場にある教職員に対し、若手教職員の育成に主体的に取り組むよう指導した。 ・運動部顧問や外部指導者が、指導のあり方や安全注意義務等を学ぶとともに、所属校職員へ周知するよう指導した。 ・各地区の校長会、教頭会に義務教育課人事管理主事が参加し、不祥事根絶に向けた講話を実施した。 5 コミュニケーションの活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・人事評価面談の活用促進や、相談しやすい環境として女性教職員の相談員への登用について、県立学校や市町教育委員会へ働きかけた。 6 臨床心理士の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・不祥事案当事者との面談を実施し、事犯発生の背景や要因分析を実施する。 ・教職員に対し、専門的知見に基づく講義や指導助言を実施した。

(別紙)

指摘 4 件

監査箇所	指 摘 等 事 項	
機関名 非公表	件 名	教員によるわいせつ行為の発生
	内 容	県立高等学校の教諭は平成 26 年 12 月、知人女性にわいせつな行為を行った。
御殿場 高等学校	件 名	教員による盗撮事件の発生
	内 容	御殿場高等学校の教諭は平成 27 年 5 月、祭り会場でデジタルカメラを女性 4 人の衣服内の胸部や臀部に向け、下着を撮影するなどの盗撮行為を行った。
金谷 高等学校	件 名	交通死亡事故の発生
	内 容	平成 26 年度に 1 件、通勤途上で交通死亡事故が発生していた。
浜松特別支 援学校	件 名	交通加害事故の多発
	内 容	平成 26 年度に 4 件、通勤途上で交通加害事故が発生していた。

注意 3 件

監査箇所	指 摘 等 事 項	
三島南 高等学校	件 名	交通加害事故の発生
	内 容	平成 24 年度から 26 年度に連続して交通加害事故が発生していた。
富士宮東 高等学校	件 名	教員による生徒への体罰行為の発生
	内 容	富士宮東高等学校の教諭は平成 25 年 6 月頃、教科の研究室で生徒を指導する際、平手で頬を往復 4、5 回叩く体罰を行った。また、同教諭は平成 26 年 5 月頃と 9 月にも別の生徒に体罰を行っていた。
相良 高等学校	件 名	交通加害事故の発生
	内 容	平成 26 年度に 2 件、通勤途上で交通加害事故が発生していた。

日中青年代表交流報告

(社会教育課)

県と中国浙江省の友好交流と相互発展の促進を目的として、静岡県内の各分野の青年代表が、中国浙江省の青年代表と浙江省及び県内にて交流を行った。

1 事業概要

- (1) 参加者 中国に関心があり、日中の友好交流の促進や相互発展への取組に参加する意志のある、県内各分野の20代から40代の青年。
- (2) 参加人数 静岡県青年30人・中国浙江省青年30人(静岡県交流は28人)
- (3) 実施内容

交流・セミナー	月日	内 容
第1回セミナー	7月4日(土)	開講式、オリエンテーション、グループワーク等
第2回セミナー	8月1日(土)	中国事情講座、浙江省交流ガイダンス等
浙江省交流 【7泊8日】	8月13日(木) ～20日(木)	杭州市内視察、ホームステイ、歓迎レセプション、グループ別研修、現地・日系企業視察、上海市内視察等
第3回セミナー	10月3日(土)	静岡県交流ガイダンス、グループワーク等
静岡県交流 【3泊4日】	11月6日(金) ～9日(月)	ホームステイ、歓迎レセプション、青年意見交換会、静岡県内(学校・企業)視察等
第4回セミナー	12月19日(土)	交流報告会、閉講式

2 現地交流

(1) 浙江省交流

ア 実施日 平成27年8月13日(木)～20日(木) 7泊8日

イ 場 所 中国浙江省杭州市他省内各地、上海市

ウ 訪中者 静岡県青年交流代表団35人

〔内訳〕 団長 栗原 績 日中青年代表交流実行委員会会長 現地企業研修(中国移動通信)
県内青年30人、事務局員4人



エ 日 程

	8/14(金)	8/15(土)	8/16(日)	8/17(月)	8/18(火)	8/19(水)
午前	西湖遊覧	杭州 グループ ワーキング	ホームステイ	現地企業 コース別研修 (アリババ、伝化集団)	日系企業研修 (蕭山ヤマハ)	上海 グループ ワーキング
午後	現地企業研修 (中国移動通信)	ホームステイ	歓迎レセプション	グループ別研修 (企業、学校)	日系企業研修 (カリスやまざき) 交流夕食会	

(2) 静岡県交流

ア 実施日 平成27年11月6日(金)～9日(月) 3泊4日

イ 場 所 県内各地

ウ 来静者 浙江青年友好代表団31人

〔内訳〕 団長 朱 林森 浙江省青年連合会副主席
副団長 凌 霄 浙江省青年企業家協会副秘書長
浙江省青年28人、通訳1人



青年意見交換会

エ 日 程

	11/6 (金)	11/7 (土)	11/8 (日)	11/9 (月)
午前	歓迎レセプション	県内視察 (県立静岡東高校)	ホームステイ	県内視察 (ヤクルト本社富士裾野工場)
午後		青年意見交換会 ホームステイ		

(3) 交流の満足度

浙江省交流に対する満足度				静岡県交流に対する満足度	
ホームステイ	現地企業研修	日系企業研修	上海交流夕食会	ホームステイ	青年意見交換会
94%	100%	100%	100%	100%	92%

※ 満足度は「よかった」「どちらかといえばよかった」と回答した割合を算出。

3 交流報告会

(1) 要 旨

第4回セミナーにおいて、各参加者が交流成果と今後日中交流に継続的に寄与していくための「日中交流架け橋プラン」を発表した。



(2) 概 要

- ア 実施日 平成27年12月19日(土)
- イ 場 所 県庁別館8階第一会議室
- ウ 出席者 県内参加青年27人、来賓13人、実行委員4人

参加者の声 (抜粋)

- ・自分だけでなく家族や会社の仲間もパートナーと結びついた。中国に無関心だった自分の周りに中国を愛する輪ができたのは大きな意味がある。(企業)
- ・中国に対して報道による良くないイメージを持っている人が多いが、それが中国全体とは捉えず、あくまで中国が持つ側面の一部だという認識を持ち、自分の目で見たり肌で感じる事が大切だと感じた。(教育)
- ・中国の青年から刺激を受け、自身の仕事の社会的意義を見直し、意識を持って働くようになった。(企業)
- ・窓口対応で中国人と接する機会があるが、言葉が伝わらなくても漢字を用いて意図を伝える等、意欲的な対応が出来るようになった。(行政)
- ・学校現場において、国際協調の基盤となる友好的な心情を養う教育をしていきたい。(教育)

【参考】

参加者内訳

業種	人数
企業・団体	13人
教育	11人
行政	5人
その他	1人
計	30人

男性17人、女性13人、平均年齢33.4歳